ペンネンノルデはいまはいないよ　太陽にできた黒い棘をとりに行ったよ

宮沢賢治

一、ペンネンノルデが七つの歳（とし）に太陽にたくさんの黒い棘（とげ）ができた。　赤、　黒い棘、　父赤い眼（め）、　ばくち。

二、ノルデはそれからまた十二年、　森（ナスタ）のなかで昆布（こんぶ）とりをした。

三、ノルデは書記（しょき）になろうと思ってモネラの町へ出かけて行った。　氷羊歯（こおりしだ）の汽車、　恋人（こいびと）、　アルネ。

四、フウケーボー大博士（はかせ）はあくびといっしょにノルデの筆記帳（ひっきちょう）をすぽりとのみ込（こ）んでしまった。

五、噴火（ふんか）を海へ向（む）けるのはなかなか容易（ようい）なことでない。化物丁場（ばけものとうじょう）、　おかしなならの影（かげ）、　岩頸問答（がんけいもんどう）、　大博士発明のめがね。

六、さすがのフウケーボー大博士も命(いのち)からがらにげだした。

恐竜(きょうりゅう)、化石(かせき)の向こうから。

大博士に疑問(ぎもん)をいだく。噴火係(がかり)の職(しょく)をはがれ、その火山灰(ばい)の土壌(どじょう)を耕(たがや)す。部下(ぶか)みな従(したが)う。

七、ノルデは頭からすっかり灰をかぶってしまった。

サンムトリの噴火。ノルデ海岸(かいがん)でつかれてねむる。

ナスタ現(あら)わる。夢(ゆめ)のなかでうたう。

八、ノルデは野原(のはら)にいくつも茶いろなトランプのカードをこしらえた。

ノルデ奮起(ふんき)す。水の不足(ふそく)。

九、ノルデがこさえたトランプのカードを、みんなは春は桃いろに夏は青くした。恋人アルネとの結婚……夕方。

十、ノルデはみんなの仕事をもっとらくにしようと考えた。　そんなことをしなくってもいいよ。おれは南の方でやって見せるよ。　大雷雨。　桜の梢からセントエルモの火。　暗のなか。

十一、ノルデは三べん胴上げのまま地べたにべちゃんと落とされた。

どうだい。　ひどくいたいかい。　どう？　あなたひどくいたい？　ノルデつかれてねむる。

十二、ノルデは太陽から黒い棘（とげ）をとるためにでかけた。

太陽がまたぐらぐらおどりだしたなあ。困（こま）るなあ。おい断（こと）わっちまえよ。奮起す。おーい、火山だなんてまるで別（べつ）だよ。ちゃんと立派（りっぱ）なビルデングになってるんだぜ。

底本：「セロ弾きのゴーシュ」角川文庫、角川書店
1957（昭和32）年11月15日初版発行
1967（昭和42）年4月5日10版発行
1993（平成5）年5月20日改版50版発行
入力：土屋隆
校正：田中敬三
2006年3月22日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんで

す。